

令和7年3月
伊丹市教育委員会

伊丹市 校務DX計画

伊丹市教育委員会は令和6年1月に伊丹市教育DX推進指針を策定し、「子どもの学びの充実」と「教職員等の働き方改革」を実現するために教育DXを推進してきました。

本計画は、この指針に基づいて、「教職員等の働き方改革」である校務DXの実現に向けた計画を示すものです。

1. 校務DX

① 学校と児童生徒・保護者間の連絡手段等のデジタル化

伊丹市では、令和6年度に学習eポータル「まなびポケット」を導入し、児童生徒への連絡事項や保護者の遅刻・欠席連絡に活用しています。

また、令和7年度には「Microsoft 365」の導入を目指しており、「Teams」や「Microsoft Form」などのツール利用も予定しています。

さらに、令和8年度に導入を予定している次世代校務支援システムとの連携を考慮し、総合的に見て最も適切なツールを活用し、連絡手段のデジタル化を進めます。

② 校務（学校及び教育委員会事務局）の効率化

原則として、FAXの利用や押印を廃止します。

また、令和8年度に予定している次世代校務支援システムの導入検討にあわせて、校務用グループウェアの見直しを行い、事務の効率化を図ります。

さらに、校務用グループウェアの更新にあわせて、学校と教育委員会事務局との連絡手段も効率化し、積極的なペーパレス化やワークフローの拡大、システム間のデータ連携などを推進することで、業務負担を軽減します。

③ デジタルドリル・自動採点システムの活用

令和4年度よりデジタル教材として「ドリルパーク」を導入しています。現在の利用状況等を分析し、より効果的な活用方法を研究・推進します。

また、他のデジタル教材の調査も並行して行い、伊丹市に最適な学習基盤の構築に努めます。

さらに、令和7年度からは、各中学校で個別に採用していた自動採点システムを「リアテンダント」に統一し、「Microsoft 365」と連携させることで、DXの推進を図ります。

④ 学校内・学校間・研修におけるロケーションフリー化

伊丹市では、校務をどこでも同じ環境で行える「学校内のロケーションフリー」の実現を目指します。

また、市内の他の学校においても同様の環境で校務を行える「学校間のロケーションフリー」も推進します。

一方、学校外での校務については、教職員の働き方のあり方を慎重に検討する必要があるため、引き続き協議を進めます。

2. 次世代校務支援システムの導入検討

伊丹市における次世代校務支援システムの導入については、兵庫県内の共同調達・利用や帳票類の統一を前提としています。

しかし、他の自治体にはそれぞれ個別の校務課題を抱えており、県内での共同調達・利用には多くの壁が存在します。

そのため、伊丹市は県内での共同調達・利用を前提としつつ、これが困難な場合には単独で次世代校務支援システムの導入も視野に入れて検討を進めてまいります。

まず、令和7年度に文部科学省が示す「いわゆる強固なアクセス制御によるセキュリティ対策」を実装した教育情報通信基盤を整備します。

以上